

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070500448
法人名	宗教法人 天理教市丸分教会
事業所名	グループホーム陽気
所在地	飯田市鼎下山270-1
自己評価作成日	平成 22年 10月 20日
評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 15日

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500448&SCD=320
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	非営利法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成22年11月30日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

家庭的な生活を通しての陽気な暮らし

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>母体となっている宗教法人の「晴天の心で陽気暮らし」をモットーに、管理者・職員がみな明るく穏やかなグループホームである。それとともに、管理者家族と一緒に住み込んでいるので、地域と一体となっていて、安心、かつ安全という面で優れている。</p> <p>また、普通の大きな一軒家に、利用者と管理者家族を合わせた大家族が住み、職員は家族の手伝いをしているといった家庭的なグループホームである。ここでは、家族の一員としてお互いに助け合いながら暮らしているという実感がもて、充実している。</p> <p>このような地域一体で家庭的な生活ができるグループホームとして、今後「終の棲家」としてのターミナルケアが期待されている。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	63	ほぼ全ての家族と家族の2/3くらいと家族の1/3くらいとほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	64	ほぼ毎日のように数日に1回程度たまにほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	65	大いに増えている少しずつ増えているあまり増えていない全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (11,12)	66	ほぼ全ての職員が職員の2/3くらいが職員の1/3くらいがほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	67	ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	68	ほぼ全ての家族等が家族等の2/3くらいが家族等の1/3くらいがほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)				

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日には、職員会議でその理念について読み合わせ、実践に向けた話をしている。	毎週の職員会議で運営理念を唱え、その具体化について話し合い、実践に結びつけている。職員が「自分が元気であると、利用者の皆さんの心もいい気分になる」と陽気ぐらしの様子を語ってくれた。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	宗教法人は、以前から地元に着しているため、事業所も同じように交流している。	管理者家族が住み込み自治会に加入し、その上、宗教法人の分教会として地域に深く結びついている。また、中学生の職場体験や老人大学のボランティアとの交流以外に、オープンガーデンやお茶会を催すなどして地域に開かれている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や、介護、ケア全般について、地域の人々の相談にのっている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーの方々の意見を良く聞いて、いろいろな創意工夫を出して頂いている。	年間計画を立て運営推進会議を開催するよう努力している。メンバーも民生委員、健康福祉委員、自治会班長など地域の方々の多くの参加があり、一人暮らしのお年寄りとお茶会、昼食会などが話し合われている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課の窓口や毎月の介護事業所連絡会に出席している。	包括センターなどの担当者とは連絡を取り合い、設備や介護について情報を交換している。また、同じ敷地内に他目的ホームを運営し、平成21年には、くらし生活・環境部門の「奨励賞」を受賞した。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度職員会議で話し合い、理解を深めている。	毎月身体拘束について学習し合い、実践に活かせるよう努めている。ベッドに柵をつける時でも同意書で承認してもらい、徘徊しそうなときは外へ誘導しながら戻ってもらうなど、きめ細かな配慮を行っている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度、虐待防止について話し合い、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度、権利擁護について話し理解を含め、必要に応じて、入居者の支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、よく説明し理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関するすべての事について、利用者、家族等の意見を良く聞くようにしている。外部者へ表せる機会は運営推進会議等。家族会は、家族の都合が悪い方が多く、なかなか開催できない。	家族会を設けているが、多くの家族の都合でなかなか開催できないのが実情である。そこで、運営推進会議に都合のつく家族に参加してもらい、意見や要望を述べてもらうよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職員会議で話し合い、意見や提案を聞き反映させている。	毎朝9時からのミーティングで、記録を基に話し合っ、記録するだけでなく記録を活かすようにしている。また、職員には順番に研修を受ける機会を設け、ケアサービスの向上を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に女性の就業者については、働きやすい様に常に考慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働くローテーションの中で少しずつ研修の機会を確保し、勉強している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度のグループホーム同業者の集いに参加し、交流、勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、家庭訪問等をして、本人との信頼関係を築く様になっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と何回か相互訪問をして、信頼される様に努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く家族の希望、意見等を聞いている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に管理者夫婦がホームに住み込んでいるので、家庭的な生活に近づいた暮らしになっている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等には月に1度の来訪を促し、入居者支援をお願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問を歓迎し、又、入居者の地元訪問や墓参り等の支援をしている。	利用者の地元や元職場の友人、知人に訪問してもらったり、お墓参りやお祭りに地元へ帰ったりすることを勧め、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	炊事の共同作業やレクリエーション等で親睦を計り、同調できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談等を受け付けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の家庭訪問で、生活状況等を把握し、入居後の生活に活かしている。	センター方式のフェイスシートなどを利用して、利用者一人ひとりの個票を基に希望や意向の把握に努めている。また、その時、その場での呟きや行動などから気持ちを推し測るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から良く話を聞き、希望に添う様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方に対応して介護している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の職員会議で意見交換し、現状に合わせた介護計画になる様努めている。	利用者一人ひとりのこれまでの状況や経過を踏まえながら、サービス担当者が中心になって介護計画を作成している。そして、モニタリングを通して、介護計画の見直しを行っている。	介護計画、介護経過、モニタリングなどの記録を充実し、より工夫したケアプランの作成を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に基づいて、職員間で介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや、元住んでいた地元訪問等、柔軟な支援やサービスに少しずつ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の元住んでいた地域の方と交流。中学生、福祉体験ボランティア受け入れ。地区民生委員とのお茶会。	
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に往診(金曜日)して頂いて、健康管理に努めている。	かかりつけ医に隔週定期的に往診してもらい、グループホームの看護師と連携して、体調や薬の管理を行っている。また、臨機応変に通院支援を行い、家族に連絡している。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がケアマネージャーなので、個々の健康管理に役立っている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医による、紹介状などで早めの対応をしている。	
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と相談したり、健康状態によって話し合いをしている。	重度化した利用者が数人いて、看取りまで希望する家族も出てきている。これまでは、入居時や、その時の健康状態による本人・家族等の話し合いで対応してきた。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行っていきたい。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対策を策定し、地域との協力を深めている。	利用者が1階と2階に分かれ居住しているが、スプリンクラーなどを設置して設備面を充実してきた。また、地域と連携して、分教会の広間や駐車場に避難誘導する訓練を行い、緊急時の災害に備えている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣い良く、同じ態度で介護できる様話し合っている。	「接遇マナー」で、言葉遣いや相手の身になっての介護などを通して職員間で共有し、支援に活かしている。また、情報管理も事務室で集中管理し、プライバシーに留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向をふまえて介護する様努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の良さを活かして、介護支援出来る様努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容等身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材準備の手伝い等、できることから一緒にさせて頂いている。	食事準備の時から利用者の出来ることを職員と一緒にいき、楽しく会食している。また、栄養士に支援してもらった手作りの献立は、利用者ひとり一人の体調変化にも応じて、刻み食やとろみ食を加えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立メニューの工夫や、栄養士さんからのアドバイスを頂いて、工夫、支援に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	看護師さんの指導の元、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた自立支援に心がけている。	利用者一人ひとりに応じて、おむつ、リハビリパンツ、パットなどを使ったり、部屋にトイレを置いたりして自立に向け、支援している。特に、声かけには注意して、利用者のプライバシーを大切にしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医の指示や、運動、水分等で気をつけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決める中で、少しずつ対応している。	利用者の希望や意向を聞き、週2回、個浴、シャワー浴、2人支援浴などを行い、楽しく入浴してもらっている。さらに寒い時などシャワー浴と足浴を組み合わせるなど工夫していきたい。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬支援をしている、		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材準備の手伝い、おそうじ、レクリエーション等で支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等、なるべく外に出れるよう努めている。	利用者一人ひとりの状態に応じて、買い物や散歩に出かけるように支援している。また、庭や分教会の建物に行くよう、なるべく外へ出て、気分転換ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの認知状況に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等、かけたい時にかけることが出来る様努めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭と同じ様にしている。	玄関から廊下を通り、台所と居間が一つになったやや狭いけれどこのグループホームの共有空間が普通の家庭のようにある。備え付けの備品も飾りも普通の家庭の物で、温かみがあり、普段通りの生活が過ごせるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの希望に添って対応している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今まで使用したものを使って生活している。	入居者が今まで使っていた物を、その通りに置き、部屋は本人の好きなように飾ってあり、居心地良くなっている。誕生日のカードや家族写真などが、明るく映えている居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の程度に合わせて対応しているが、難しい。		